

SEINAN Spirit

No. 212
西南学院大学
2020 Spring

SEINAN Spirit

No. 212

2020 Spring

2020年3月12日発行(季刊誌)

編集／西南学院大学総合企画部広報校友課 〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92 ☎092-823-3248

発行／西南学院大学

私

プラス

チャレンジしたら、「新しい私」が見つかった！



2020年度広報誌Spirit / ボランティア学生募集のお知らせ

学生の皆さんにとって、より魅力的な広報誌をお届けするため、
広報誌への意見、企画の提案などに協力してくれる
ボランティア学生が活動しています。
2020年度の募集については、4月中旬にSAINSポータルで案内する予定です。
皆さんのご参加をお待ちしています。

広報誌Spiritボランティア

募集人数	20～30名程度(年次は問いません)
活動期間	2020年5月～2021年3月 (年間を通じて積極的に参加できる方)

ボランティア
学生の
活動内容
※内容は変更になる
場合があります。

初回
オリエン
テーション
(5月中旬予定)

Spirit各号の
企画会議
(年4回)および
企画案の提出

企画会議から
参加できる！

取材・撮影への
同行

Instagramの
ページ制作

その他
広報誌に
関わること

撮影の現場を
覗いてみよう！



お問い合わせ先 広報・校友課 TEL:092-823-3248 E-mail: koho@seinan-gu.ac.jp

SEINAN Spirit からのお知らせ

Instagram 「#sspirit」フォローしてね！

西南学院大学の季節の風景、何気ない1シーンを撮影した
写真をアップしています！皆さんぜひフォローしてください！

広報誌「SEINAN Spirit」Instagram(@seinanspirit)
<https://www.instagram.com/seinanspirit/>



西南学院大学

inspiring you
心と知を紡ぎ、世界へ

CONTENTS

02
[特集] チャレンジしたら、「新しい私」が見つかった！
私、^{プラス}+

09
西南学院大生、熱中の日々／^{今、私は、}
国際文化学部国際文化学科 3年
デイビス・マシューさん

11
MY ANSWER
神学部神学科 濱野 道雄教授
商学部商学科 × 小川 浩昭教授

13
就活サブリ
内定者座談会

15
Before⇒After 一歩前へ。
法学部国際関係法学科 3年
古本 翼さん

16
私の留学-STORY- 世界がキャンパス
文学部外国語学科フランス語専攻 3年
桑野 イドリスさん

17
知の原点
文学部英文学科
藤野 功一教授

18
こんにちは先輩。
九州朝日放送株式会社
ラジオ局営業業務部 部長代理
大迫 真理子さん

19
NEWS & TOPICS
教授のヨノナカ考
経済学部国際経済学科 加藤 真理子准教授

23
INFORMATION

25
決断 ターニングポイント！
株式会社西日本新聞社
報道センター社会部 記者
鶴 善行さん

雲の柱 火の柱

#111

「解き放て、ジブン！」

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

4月から外国語学部がスタートします。これまでの3年間に渡る外国語学部設置に向けた準備は、一言でいえば「語学の西南」の意味自体を問い直す作業でした。1971年、最初の交換留学を実現した本学の歴史を理解した上で、改革を計画、遂行し、勇気を持って決断することの大切さを知りました。

外国語学部設置が決まった日、当時学長だったK.J.シャフナー先生が私に言いました。「新入生に何を期待しますか」。私は「新入生の皆さんが笑顔で学び、そして、時には悩み苦しむことがあっても、希望を捨てず、自分の可能性を信じる。そんな光景をこのキャンパスで見たい」と答えました。「きっと実現できるはず。一緒に強く祈りましょう」。このシャフナー先生の言葉をずっと忘れずにいたいと思っています。

西南学院大学のキャッチフレーズは「inspiring you 心と知を紡ぎ、世界へ」。神によって息を吹き込まれた皆さんが、自らの可能性を解き放つ。それが西南で学ぶ意味なのです。

今こそ、解き放て、ジブン！ようこそ、西南学院大学へ。

いとう あきひろ
広報委員長 伊藤 彰浩

My Challenge:
チャレンジしたら、「新しい私」が見つかった！

私、 プラス



4月から新年度がスタートします！
新入生はもちろん、
年度が変わるこの時期に
何かを始めようとする人も
多いのではないのでしょうか？
今号では、様々なことに
チャレンジしている学生を紹介します。
彼らはどのような挑戦をして、
どのような新しい私、新しい可能性を
見つけたのでしょうか？
あなたの背中を押す刺激やヒントが
きっとあるはずです。

自分以外の誰かのために、

一生懸命になれる私、見つけました。

My Challenge.

女子ラクロス部 マネージャー

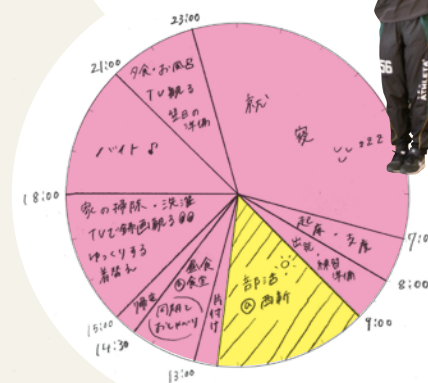
こが すみ か
古賀 純華さん

国際文化学部国際文化学科 3年
(佐賀北高等学校出身)



共感力

ある日のスケジュール ～部活の練習がある土曜日～



部活があるから、
休日も大変しています。

Q マネージャーとしての
やりがいは何ですか？

(A) 選手から「ありがとう」と言われた時はうれいです。また、マッサージをお願いされた時や、マネージャーとしての意見を求められ頼りにされた時はもっと頑張ろうと思います。

Q 今後の目標や
挑戦したいことは何ですか？

(A) 九州での競技人口はまだ少ないので、私たちが先頭に立ち、ラクロスという競技を多くの人に広めていきたいと思っています。そのために大会の運営にも積極的に関わっています。

CASE 1

チャレンジしたら、
「新しい私」が見つかった！
私、☐



中 学校、高等学校では吹奏楽部に所属し、運動部とは無縁でした。そんな私が大学に入学後、女子ラクロス部のマネージャーとして活動しています。が正直、「運動部未経験の私でマネージャーが務まるの？」という不安な気持ちがありました。しかし、「九州制覇」という目標のために「一人ひとりが課題を見つけて、ひたむきに練習に取り組む先輩たちの姿を見て、ここで頑張ろうと思えました。この人たちをサポートしたい」という強い気持ちで、入部を決めました。

話を思い浮かべるかもしれませんが、ラクロス部のマネージャーは違います。どうすれば勝てるチームになるのかを選手同様に考え、発言します。その分、責任も伴います。練習メニューのタイム管理、スコアの記録、ティビングでの処置、マネージャーとしてすべきことを自ら考えて臨機応変に対応し、練習をサポートしなければなりません。

合ってくれる仲間が支えてくれたおかげで、一度も辞めたいと思ったことはありません。選手やチームの成長を感じた時はうれしくなり、逆に試合で力を十分に発揮できなかった時は、自分のことに悔しさがこみ上げてきます。他の誰かに共感し、一生懸命になれることに、自分でも驚きます。女子ラクロス部のマネージャーになっただけで、こんな自分に気付かなかったかもしれません。



子どもの笑顔や素直さに触れるたび、

夢への思いが強くなったと実感しました。

My Challenge.

小学校教諭

いけだ ゆうま
池田 優真さん

人間科学部児童教育学科 2年
(嘉穂高等学校出身)



子どもと関わる力

ある日のスケジュール ～サークルのある日～



アイデアを出し合い、
子どもたちが喜んで遊びを
試行錯誤しています！

小 学校の先生になりたいという夢を抱いたのは、小学生の頃です。単純かもしれませんが、担任の先生に憧れたことがきっかけです。

現在は、人間科学部児童教育学科で学びつつ子どもたちと触れ合える時間を増やしたいと考え、ボランティアサークル「ワークキャンプ部」に所属しています。活動では主に、自分たちで考えたレクリエーションで



子どもたちと一緒に遊びます。工作やケーキ作り、クリスマスパーティー、夏には衣装や小道具を手作りしてお化け屋敷をしたこともありました。こうした子どもたちが喜んでくれるか、いつも頭を悩ませますが、試行錯誤したレクリエーションで子どもたちが笑っている姿を見ると、頑張ったかいがあったなと感じます。

子どもたちの素直さに触れるたび、夢への思いが強くなります。この活動を通して、子どもたちとのコミュニケーションに自信がつかしました。しかし、いまだに苦手のなななななを叱ることで、感情で叱るのではなく、子どもと一緒に反省し、改善しながら、子どもも自分自身も成長できればと考えています。



Q 子どもたちから
学ぶことはありますか？

(A) たくさんありますが、一番は偏見や思い込みがないことです。何気ない会話の中でハッとさせられることがしばしばあり、教育者としてのあり方を学ばせてもらっていると感じます。

Q 今後の目標や
挑戦したいことは何ですか？

(A) 小学校の授業を補助するアルバイト「学生サポーター」にチャレンジしようと考えています。これまでの「遊び」の面に加え、「学び」の面で子どもたちと関わる力を身に付けたいと思っています。

CASE 2

チャレンジしたら、
「新しい私」が見つかった！
私、☐

その楽しさと責任を学び、成長しています。

My Challenge.

福岡親善大使

さ ど は り か
佐土原 理夏さん

経済学部国際経済学科 2年
(武岡台高等学校出身)

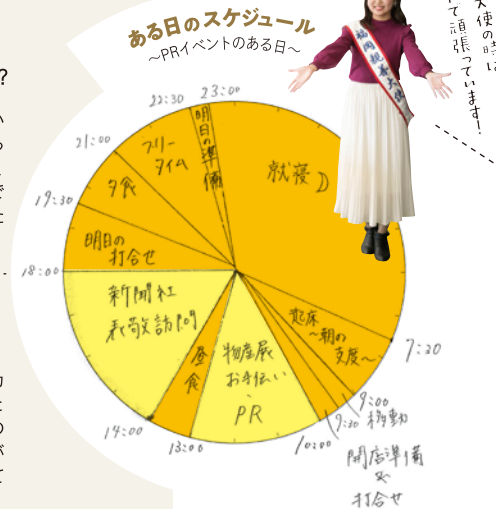


Q 「福岡親善大使」の活動で
気を付けていることはありますか？

(A) 社会人としての礼儀や立ち居振る舞いを常に心掛けています。また、移動する際のチケットの手配や集合時間の確認、更衣室の場所の確認など、自己責任で行動する場面も多いですが、社会に出た時に役立つと感じています。

Q 学内で取り組んでいる活動はありますか？

(A) 小学生の朗読コンクール「RKBお話アカデミー」にボランティア学生スタッフとして参加しています。アナウンサーの方々の「話す技術」を身近で学ぶことができ、福岡親善大使の活動にも役立っています。



福岡県善大使の時に
仕事モードで頑張っています！

チャレンジしたら、
「新しい私」が見つかった！
私、+

CASE 3



鹿 児島県出身の私にとって、家族旅行でよく訪れていた福岡は、幼い頃から慣れ親しんだ大好きな場所でした。西南学院大学に入学し、福岡で暮らすようになってからは、いつしか「福岡のことをもと知りたい、感じたい、伝えたい」と思うようになりました。その時に見つけたのが、「福岡親善大使」の募集でした。「福岡市をPRできる絶好のチャンス！」と迷うことなく応募し、昨年春から福岡親善大使として活動しています。

活動内容は、主に全国各地の百貨店で開催される福岡や九州の物産展でのPR、県庁や新聞社な

どへの敬訪問です。福岡の魅力をしっかりと伝えることが私の役割です。私自身が見て聞いて食べて歩いて感動したことを元にPR原稿を作成し、自分の言葉で県外の方に発信しています。また、福岡市民の代表という責任もあるので、正しい言葉遣い、適切な言葉遣いを常に心掛けています。

この活動での一番のやりがいはPRを聞いて、「福岡」に行ってみた！という言葉をいただけた時です。同時に、自分が



信を持って伝えた言葉には、相手に伝わる強い力があると実感します。

2年間の活動期間も残すところあと1年です。まだまだ伝えられていない福岡の魅力を全国の人に発信していきたいと思っています。

将来は人前で話す仕事に就くことが目標です。そのために、この経験を通して、自分の言葉で伝えることの意味や責任について学び、成長したいです。



「自分に何ができるだろう」。

自ら考え、行動することが成長につながった。

My Challenge.

ボランティア活動

はら だ こう
原田 仰さん

神学部神学科 2年
(福岡講倫館高等学校出身)



高

校時代、熊本地震のボランティア活動に携わり、被災者の方々と話す機会がありました。そこで、被災者の方々が計り知れないほどの不安や恐怖を抱えていたことを知り、「自分

をモットーにサークル活動を行っています。活動内容は幅広く、百道浜の清掃や過疎地区での田植えの手伝い、九州北部豪雨の被災地区での土砂のかき出しなど様々です。

える関係になるために大事なことだと信じています。

現在はサークルの幹部として全体をまとめる役割を担っています。最初はあまり積極的ではなかった仲間が、次第に自分の目標を見つけ、自主的に行

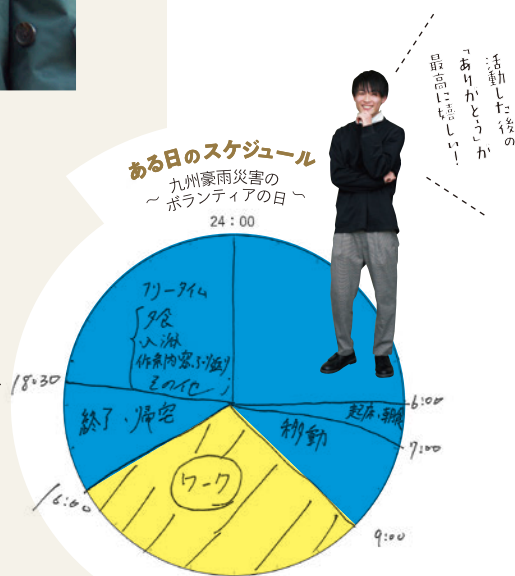


Q 海外ではどのようなボランティア活動をしますか？

(A) 貧困や過疎の地域を訪れ、子どもたちへの教育支援をはじめ、地域おこし、農作業ボランティアなどの活動をしています。これまでにモンゴル、ネパール、インドネシアなどを訪問しています。

Q ボランティア活動はハードルが高そうです…。

(A) Think&Actは、ボランティアにあと一歩が踏み出せない人を応援しています
「この活動なら負いもなく始められそう」「その問題に自分も興味がある」と思える活動がたくさんあります。
ボランティア活動に興味がある方は気軽にボランティアセンター(1号館2階)を訪ねてみてください!



CASE 4

My Challenge.



こじま たいち
小島 大知さん
商学部経営学科 1年
(玉名高等学校出身)

+ 寛容さ

様々な人の生き方に学び、
当たり前前の生活のありがたさを実感。

最初は気軽な気持ちで参加し始めたチャペルアワーでしたが、ホームレス支援や途上国の教育支援など、様々な分野で活躍している方の体験談を聞くことも多く、毎回、どう生きるかを考える良いきっかけとなっています。また、当たり前前の生活のありがたさを知り、寛容な心を持って人や物事に向き合いたいという気持ちも生まれました。わずか25分のチャペルアワーですが、とても実りの多い時間です。

My Challenge.

チャペルアワー

My Challenge.

+ ハーモニー

気持ちをついに、
自分たちだけの
ハーモニーを作る。

小学校の先生を目指して、将来、音楽を教える時に役立てばと思い、アカペラサークルへ。担当は、ボイスパーカッションです。最初の頃は思うような音が出せなかったのですが、練習を続けるうちに「これだー」という音が出せるようになりました。お互いの声を感じながら、気持ちを一つにして自分たちだけのハーモニーを作る。「音楽ってコミュニケーションだな」と感じます。



おおた しんのすけ
太田 慎之介さん
人間科学部児童教育学科 2年
(須恵高等学校出身)

My Challenge.

応援指導部 **チアリーダー**

+ 仲間

甘えない、甘えさせない。
これぞ、信頼できる仲間です！

チアリーディングは「笑顔の真剣勝負」とも呼ばれ、見た目以上にハードな競技です。16人のうち、誰か一人でも欠けてしまうと演技が成立しないため、メンバー同士の信頼関係が何よりも大切です。ミスをした時も甘やかさず、しっかり注意してくれるのも、私のことを信頼しているからこそ。仲間とつらい練習を乗り越え、パーフェクトな演技ができた瞬間は最高です！



みしま ななこ
三島 奈々子さん
法学部国際関係法学科 2年
(香椎高等学校出身)

チャレンジしたら、
「新しい私」が見つかった！
私、

やまうち なみ
山内 七海さん
文学部外国語学科英語専攻 3年
(福岡高等学校出身)

+ 架け橋

西南学院大学で
異文化交流を
楽しまないなんて
もったいない！

「授業で学んだ英語を試したい！」と思い、GSLのスタッフに参加しました。毎週1回3号館1階で日本人学生と留学生をつなぐ国際交流イベントを開催しています。やりがいはいま、うまくコミュニケーションできない日本人学生や留学生の「架け橋」になれること。私自身が感じた異文化交流の楽しさを、一人でも多くの人に感じてほしいです。ぜひ気軽に参加してください！

My Challenge.

GSL「グローバルステュデントラウンジ」運営スタッフ

My Challenge の先に、実感できる成長がある！

やまぐち ききこ
山口 早紀子さん
経済学部国際経済学科 3年
(伊万里高等学校出身)

+ 地道な努力

大好きな英語が
努力する楽しさを
教えてくれました。

入学直後からラジオやネット動画、学内のTOEFL講座などで英語を学び、派遣留学の夢を叶えました。留学中は経済学を徹底的に学び、帰国後は留学生をサポートするパティ制度に参加するなど、生きた英語に触れる機会を積極的に設けています。語学の楽しさに触れ、地道に努力する力を身に付けることができました。次の目標はアメリカの大学院でMBAを取得することです！



My Challenge.

語学学習

My Challenge.

+ 逃げない力

※IFBB世界ジュニア選手権大会優勝(2019年)

目標のために、
自分を追い込めるのは
自分だけ。

「フィジーク」とは鍛え抜かれた肉体のバランスの美しさを競い合う競技です。この競技で勝つためには、筋トレや食事制限、減量など自分で自分を追い込む精神力が求められます。大会前の厳しい時期を終え、世界の舞台で優勝し、国歌が流れた時は言葉にできない喜びを感じました。将来はパーソナルトレーナーになり、身体も心も健康になるトレーニングを広めていきたいです。



あなみ かずき
穴見 一佐さん
法学部法律学科 4年
(西南学院高等学校出身)

My Challenge.

+ ラジオパーソナリティー

+ 対応力

生放送のライブ感を
楽しみながら臨機応変に。

天神にあるラジオ局「コミュニティラジオ天神」の「知ってる？シューカツ」という番組で、月2回、学生パーソナリティーを務めています。ゲストの方に学生目線で質問することもあれば、逆に質問されることもあります。生放送で、自分の考えを瞬時に言語化する難しさはありますが、回を重ねるにつれ、コミュニケーションを楽しむ度胸と対応力が身に付きました！



よしだ さやか
吉田 紗也花さん
文学部英文学科 2年
(筑紫丘高等学校出身)

く ま ひろあき
(右) **久間 大滉さん**
国際文化学部国際文化学科 3年
(京像高等学校出身)

みはら たくや
(左) **三原 卓也さん**
国際文化学部国際文化学科 3年
(筑前高等学校出身)

+ 現地で体感

机上の勉強だけでは
わからない
アメリカを体感。

アメリカの独立の歴史が国民にどのように伝えられ、認識されているか。この課題を探るため、国際文化学部の研究旅行奨励制度を利用してアメリカ4都市で実地調査を行いました。印象的だったのは、博物館で独立の歴史を過剰に正当化して紹介していたことです。アメリカの自国中心の考え方を強く感じたと同時に、現地で学ぶ意義を知れた貴重な経験でした。

My Challenge.

フィールドワーク



「English Cafe」では1テーブルにつき3～5人でフリートーク。常に笑い声が飛び交い、和やかな雰囲気。

留学生別科を経て、再び西南学院大学へ
今も日本語学習真っ只中

日本に興味を持ったきっかけは、高校時代に夢中になったアニメです。最初は、日本文化や日本語の美しさに憧れ、アメリカの大学在学中に本学へ留学しました。自然と街が共存する福岡の環境、西新のノスタルジックな風景、何でも話せる友人の存在に、ますます日本が好きになり、「もっとここで勉強したい」と、留学生別科終了後も日本に残ることを決意。日本留学試験（EJU）合格に向けて日本語学校に通い、1年間寝る間も惜しんで猛勉強しました。そして、無事にEJUに合格、その後本学の外国人入試も合格し、2017年から西南学院大学の学部生として日本語で講義や試験を受けています。

現在、日常生活で困らないレベルにまで日本語を習得できました。レポートや論文には、より高度な日本語の能力が求められるので大変ですが、友人の協力のおかげで、学ぶ楽しさを感じつつ、挑戦しています。

留学生との距離を縮めるべく様々なイベントも企画中

言語を習得する難しさは私も知っています。だからこそ「English



ワールドカフェ

日時 毎週月曜 12:10～14:30 (韓国語カフェ)
毎週火曜 12:40～15:00 (English Cafe)
毎週金曜 12:10～14:30 (中国語茶室)

場所 | 言語教育センター1Fラウンジ
※事前登録や予約は不要、時間内の出入り自由

これからトライしたいこと



人の役に立ち、自信にも繋がるボランティア活動に挑戦!

昨年の夏季休暇中に、「アジアフォーカス・福岡国際映画祭」のボランティアに参加。来日した映画監督や俳優に1週間にわたって福岡を案内しました。自分の語学力を生かして、人の役に立てた貴重な経験は、自信に繋がりました。今後も語学力を生かし、様々なボランティアに挑戦したいです。

西南学院大学のここがいい!

国際交流ができる環境が整っていること。そして、様々な言語にわたって、映画や雑誌、課外プログラムが揃う言語教育センターや、世界のあらゆる国に留学できる留学制度は、誇るべきものだと思います。私もこの環境の良さをもっと広められるように、今の活動を通じて発信していきたいです。

#04

西南学院大生

×

English Cafe

国際文化学部国際文化学科 3年

デイビス・マシューさん

(ユニオン・カトリック・リージョナル・ハイスクール出身)

言語教育センター「English Cafe」の運営スタッフのリーダー。本学の留学生別科を終了後、外国人入試を受験して学部入学を果たした勉強家。同センターの「語学ラボ」では講師としても活躍。

言語教育センター1階のラウンジでは、それぞれの言語での会話を楽しむイベント「English Cafe」、「中国語茶室」、「韓国語カフェ」（総称「ワールドカフェ」）を開催しています。「ワールドカフェ」は学生主体のイベントで、私は「English Cafe」の運営スタッフのリーダーとして活動しています。

話す楽しさを伝えたい
語学学習の道はここから!

日本人と留学生をつなげたい!
語学学習を通じて、交流の輪を広げる。



「ワールドカフェ」は、本学の学生であれば誰でも参加できる課外プログラムです。毎回、スタッフが考えた、旅行や映画など身近なトピックについて、お菓子を食べながら和やかな雰囲気の中で、行われます。形式ばったレッスンではなく、おしゃべりするように会話を楽しめるのが魅力です。

「English Cafe」では参加者のレベルに合わせて5つのテーブルに席を振り分けます。初めての参加や、英語が苦手な学生でも、「聞き取れた」通

じた」という小さな成功体験によって語学学習を楽しくするきっかけを作りやすい工夫をしています。また、英語が母語ではない様々な国の留学生をスタッフに迎え、会話を通してその留学生の経験や価値観を日本人学生にも追体験してほしいと思っています。

英語を学ぶ友人たちから「勉強しても上達しない」という悩みをよく聞きますが、やはり言語は使つてこそ身に付くもの。日本語を勉強中の私だからこそ、身をもって実感しています。



西南学院大生、熱中の日々

今、私は、
学業に加え、スポーツやボランティアなど、
さまざまな活動に熱心に打ち込む、学生の日常に密着。
輝く姿の裏側にある努力と苦悩、そして熱い思いを、今ここに。

MY ANSWER

社会や時事問題に関する素朴な疑問に、2人の教授が答えます。それぞれの専門領域から導き出された「マイアンサー」とは？きっとあなたの知の扉を開いてくれるはずです。



神学部神学科 濱野教授の MY ANSWER

芸術は、現状の価値を超えた
もう一つの世界と価値の可能性を開ききっかけを
社会に与えるでしょう。

● 芸術鑑賞は
異なる価値観との
“闘い”のようなもの。

「芸術の定義」については、様々な説が唱えられ議論がなされています。私は、芸術の定義にもよりますが、現状の価値観を超えて「新しい価値」を示し、今の社会を超えてもう一つの世界の可能性を示すものが芸術だと考えます。

ドイツの哲学者、マルティン・ハイデガーは、「芸術作品は、世界（今の社会）と大地（まだ、見えない世界）の闘いだ」と言いました。また、社会学者の宮台真司さんは「芸術とは、社会の外を示すものであり、作品体験後に日常の価値に戻れないような心に傷をつける『営みだ』」と言います。

芸術作品には、理解不能なものや強くぶつけてくるものもあれば、とっつきやすいけれども、次第に違和感を感じものもあります。このような意味で、芸術というのは自分には価値観をぶつけてくるものとも言えます。目の前の芸術作品と対峙しながら、

同時に自分自身の価値観と対峙していく。その結果、それまで持ち得ていなかった新しい価値観が生まれることがある。だからこそ芸術鑑賞はある種の「闘い」であり、その中でも「激しい闘い」を引き起こすものは完成度の高い作品といえるでしょう。

● 自分の価値観からはみ出してみよう。

芸術に関する話題の出来事といえば、昨年開催されたあいちトリエンナーレの「表現の不自由展その後」でしょう。過去に展示を断られた作品をあえて並べ、議論を巻き起こそうとした企画展でしたが、猛烈な抗議によって開催から3日で中止に追い込まれました。

私の思う芸術の定義からすれば、芸術が「既存の価値観」と相いれないことは当たり前のことです。それでも世界が一つの価値観に凝り固まって衰退しないように、社会の新しい可能性を探ろうと公の税金を使っても芸術展というものがこれまで開催されてきたのだと思います。とこ

● 芸術の経済的価値は
何を根拠に
決められるのか。

1987年、日本の保険会社がゴッホの「ひまわり」を約53億円で落札するという出来事がありました。バブル真っ盛りの頃の話で、天文学的価格の暴開けと話題になりました。芸術作品は価格がつけられて、経済取引もされます。

この経済取引の背景には、芸術の本質的価値である「人々を感動させる」という芸術的価値が存在し、その感動を得るために絵画を購入して所有するといった経済取引を人間は行います。結果として、芸術は社会に「経済的（金銭的）価値」を与えています。

では、芸術の経済的価値は何を基準に決まるのでしょうか。経済学において長い間基本テーマとされた「価値の本質は何か」という「価値論」の視点から考えてみましょう。

まず、価値論の代表的な説の一つ「客観価値説」では、労働量によって経済的価値が決まるとされています。確かに、芸術作品は時間をかければ良い作品を作れるかもしれませんが

が、芸術というものは本来、芸術家の才能によるところが大きいため、この説で芸術の経済的価値の根拠を語るのには難しいといえるでしょう。

次に、価値論のもう一つの説である「主観価値説」ではどうでしょう。主観的な満足の度合いが効用が価値を決めるというものです。しかし、芸術はゴッホの「ひまわり」のように時に天文学的な価格も付く、株式のような「資産」としての側面もあります。すると、ケインズが株決定プロセスの比喩として用いた「美人投票」のように、自分がどの株を良いと思うかではなく、他人がどの株を良いと思うかが重要となり、芸術作品に当てはめれば、もはや本来の芸術的価値とはかけ離れた世界に入っていきます。つまり、芸術の経済的価値は本質的な芸術的価値との結びつきが弱いといえそうです。

● 芸術は価値とは何かを
考えさせるために存在する。

金融の分野では金融（Finance）とIoTやAIなどの技術（Technology）を組み合わ

るが、異なる価値観を排除すべく中止に追い込んだ行為は、新しい価値観を生み出すことを拒絶しているといえるでしょう。

実は、似たような出来事がキリスト教の歴史にもありました。人の上に人が立たない世界を求める「神の国運動」をイエスが起こしたのですが、現状の価値観を揺るがす恐れがあると感じた時の権力者は、イエスを処刑しました。こうした異なる価値観への動きに加え、「もう一つの世界」を求めようとするダイナミズムは、芸術とキリスト教に共通するものがあると感じています。

自分の価値観からはみ出していく。そうした経験を学生のうちにしておきたいと思っています。その二つの材料となるものが芸術です。芸術との「闘い」を通して、新たな価値観や自分の価値観を見つめ直すきっかけにしてください。

せた「FinTech」というサービスが増えてきました。もしかすると、芸術の分野でもテクノロジーと融合した「ArtTech」が登場するかもしれません。例えば、感動した時の脈拍、血圧などで感動のビッグデータを蓄積、解析し、最大の感動を呼び起こす絵を描く「AI芸術家」が登場するかもしれません。

2045年にAIが人類の知能を超える転換点「シンギュラリティ」を迎えるとの予測がありますが、芸術ではどうでしょうか。絵の価格ではAIが上回ることができるかもしれませんが、その場合のビッグデータは美人投票的なものでしょうから、感動とはあまり関係しません。感動は心と結びつくものですから、（希望も含めて）心のないAIには人を超えることはできず、芸術のシンギュラリティはないと思います。

経済的価値を計ることが難しい芸術ですが、その点も含めて「価値とは何か」を人々に考えさせるために芸術は存在すると考えます。ぜひ、学生の皆さんには芸術を通して「価値とは何か」を考え、物事の本質を見極める力を育てたいと思います。

芸術は「人を感動させる」という芸術的価値を持ち、
経済取引によってその感動を得ることが出来ます。
結果、芸術は社会に「経済的価値」を与えるといえるでしょう。



商学部商学科 小川教授の MY ANSWER

商学部商学科

おがわ ひろ あき

小川 浩昭 教授

日本大学商学部商学科卒業。経済学博士。研究分野は保険、リスクマネジメント、FinTech。

神学部神学科

はま の みち お

濱野 道雄 教授

上智大学文学部哲学科卒業。Pacific School of Religion大学大学院博士課程修了。牧会学博士。研究分野はキリスト教倫理学、実践神学。

西南学院東京オフィスのご案内

西南学院東京オフィスをご存知ですか？

西南学院東京オフィスは、首都圏で就職活動をする本学学生をサポートしています。インターンシップや企業訪問の拠点として、面接までの気持ちを落ち着かせる場所として、また情報収集や交流の場として、是非ご利用ください。

※利用に際しては、受付(サビアタワー3F)にて学生証を提示してください。

東京オフィスでできること

- PCの利用
- 証明書発行
- OB訪問のための連絡先情報照会
- 荷物置きや着替え
- 東京地区担当キャリアアドバイザーへの相談※

※相談が可能な日程は、SAINSポータルにてお知らせしています。

西南学院 東京オフィス

TEL: 03-5220-3737
MAIL: tokyo@seinan-gu.ac.jp
住所: 東京都千代田区丸の内
1-7-12 サビアタワー10階

〈開室時間〉

平日/9:30~18:30
土曜日/9:30~17:00(9月~2月は閉室)
学院の定める休日、日・祝日は閉室

東京駅直結！
サビアタワー
10F



学内の就活サポートで 役立ったものはありましたか？

- 岩寄** 学内で行われた企業説明会は非常に役立ちました。業界を幅広く知れ、大企業から中小企業まで見ることができました。キャンパス内で行われるので時間と交通費を節約できた点も助かりました。
- 野村** 他大学の学生がいらない安心感も良かったですね。人事の方に質問しやすくて、自己PRを作り、友人や社会人の知り合いに確認してもらいました。的確に指摘してもらえたことで、強い自己PRが作れたと思います。
- 八藤丸** 私は客室乗務員志望だったので、OG訪問の際、現役の客室乗務員の先輩方にESを見ていただきました。その時にいただいたアドバイスを参考に、志望動機や自己PRを完成させました。

早く、様々な情報を集めることができました。

●**八藤丸** そうですね。私は同じ業界でも企業ごとに雰囲気、カラーが違うことを知り、自分はこの企業に合うのかを考えるきっかけになりました。

●**大隈** 私は業種も業界も絞っていなかったのですが、学内の企業説明会に参加して、自分がどんな企業に興味があるのかを探ることができました。

●**野村** 私は3年次の3月まで留学していたので、就職活動の準備ができていませんでした。そこで、帰国後に就職課をよく利用しました。とても不安でしたが、就職課でアドバイスをいただけたおかげで、就職活動を前向きに進めることができました。

●**大隈** 就職課にはぜひ足を運んでほしいです。就職課に置いてある「就職のしおり」は、



▲就職のしおり

過去の面接内容について詳しく書かれており、面接対策に活用できると思います。

では、最後に後輩の皆さんに 就職活動のアドバイスを お願いします。

●**八藤丸** 「これをやれば、内定がもらえる」というものは、正直ありません。しかし、準備をしっかりと丁寧に行うことで就職活動を有利に進められます。そして何より大事なのが健康管理です。自分をいたわることも忘れずに就職活動を乗り切りましょう。

●**岩寄** いざ就職活動がスタートすると、ESの作成やSPI対策、面接対策など、やるべきことが一気に押し寄せてきます。最低限必要な準備は早めに進めておくことです。

●**野村** 確かに私は準備不足で大変だったため、準備は早いに越したことはないですね。私のアドバイスは、「これが自分のやりたいことだ」というブレない軸を最初に作ることです。私は、「若いうちから海外で働きたい」という軸が迷った時の指針になりました。

●**八藤丸** 就職活動は周りに流されそうになったり、焦ってしまったりすることもあるので、ブレない軸を作ることは大事ですね。

●**大隈** 私は興味のあることにはどんどん挑戦してほしいですね。「私はこんな人間です」と語れる経験と根拠をたくさん作って、自分の中にストックしておきましょう。あとは就職活動を楽しみましょう！

●**岩寄** 就職活動は大変だけど、新しい自分を見つけるチャンス。前向きに頑張ってください！

「就職活動は具体的に何を、どう進めればいいの？」という声にお応えする「就活サブリ」。

就活に向けて今、必要な情報をギュッと凝縮し、皆さんをサポートします。

今、必要な情報をギュッと凝縮！

就活サブリ

就活成功の秘訣を探る！

内定者座談会

今回の就活サブリは、志望する企業に内定した学生4人による座談会を開催。
皆さんの就職活動に役立つヒントが満載です！

採用選考で重要視される「自己PR」。皆さんはどうやって完成させましたか？

●**大隈** 私はまず中学校、高等学校、大学で経験したことを書き出しました。そこからリーダーを務めた経験が多いことに気付き、「率先してまとめ役になる」「人前に立つて発信することが好き」という強みを見つけ出しました。ES(エントリーシート)や面接では、この強みを裏付けるエピソードと一緒に伝えるようにしました。

●**野村** 私は自分がどのような人間かを他人に質問し客観的に分析する、いわゆる「自己分析」をもとに自己PRを作りました。友人たちに質問すると、私を表す共通のキーワードが「行動力」「バイタリティー」でした。自分では気付かない自分の強みを知ることで、自信になりました。

●**岩寄** 自己PRに悩んでいる人にとって、自己分析は有効ですね。私も他



内定先
**株式会社
ヤクルト本社**

のむら けん た
野村 健太さん
文学部外国語学科4年
(真和高等学校出身)

内定先
**全日本空輸株式会社
(ANA)**

やとう まる ま ゆ
八藤丸 真由さん
国際文化学部国際文化学科4年
(福岡女学院高等学校出身)

内定先
日本銀行

おおくま な つ
大隈 奈津さん
経済学部経済学科4年
(福岡高等学校出身)

内定先
九州電力株式会社

いわさき こうへい
岩寄 滉平さん
法学部法律学科4年
(東福岡高等学校出身)

教えて！面接のポイント！

野村さんからのアドバイス



**知ったかぶりはNG。
質問に簡潔に答えること。**

会社や業界の知識を語っても、学生は敵いません。それよりも、「聞かれたことを分かりやすく、簡潔に話すこと」が大切です。人事の方もこの点を評価してくださいました。また、自分を語る体験談を複数用意し、質問に合わせて使い分けました。毎回同じ話題だと、「それしかない」という印象になりますよね。あとは場数を踏んで慣れること。慣れれば、アドリブが出るくらい自然体で話せるようになりますよ。

八藤丸さんからのアドバイス



自分のキャッチコピーを作る！

書道の師範の資格を所有しているので、「黄金の右手」というキャッチコピーを自己PR欄に記載していました。すると、2次面接の時、「今日黄金の右手、持って来たの？」と聞かれたことで緊張がほどけ、自然体で面接に臨めました。そうしたキャッチコピーを自分に付けると与える印象も強くなるはずです。さらに、自分をPRできる体験は複数用意し、質問に合わせて切り替えて話すといいですよ。

大隈さんからのアドバイス



「自分を知ってもらう時間」を楽しもう。

「面接は人生経験の一つ」と気負わないことです。私は、自分を知ってもらう時間として楽しみました。また、考えながら話す力を鍛えておくと、想定外の質問にも焦らず対応することができます。ゼミのディスカッションは、この力を鍛えるのにぴったりだと思います。そして、面接官の言葉を聞き逃さないことです。「これは次に使える！」という強いワードが隠れていますよ。

岩寄さんからのアドバイス



**どんな質問も自分の長所に
結びつけてアピール。**

面接は、「自分の長所」や『「企業の求める人物像」に自分が適している点」に結びつけて回答しました。そのためには、まず自己分析をしっかり行い、自分の強みを整理しておくことが大切です。また、社会人の方と話すことに慣れておくことです。私はアルバイトやボランティア活動で普段から社会人の方と接していたおかげで、自然体で面接に臨めました。これは1年生から始められる就活対策だと思います。



世界がキャンパス

文学部外国語学科フランス語専攻 3年

くわの
桑野 イドリスさん (祐誠高等学校出身)

〔留学先協定校〕

ルーヴァン・カトリック大学
(ベルギー)

留学期間: 2018年8月～2019年7月



ベルギーのルーヴァン＝ラ＝ヌーヴに位置する私立大学で、創立は1425年。人文社会科学系、医学系、科学技術系の3分野14学部からなり、カトリック系として最も長い歴史を持つ大学の一つ。学生数は約30,000人。

**自分にも、語学にも
自信がついたのは、
地道な努力を
怠らなかったから。**

Q1

**留学先は
どんな大学ですか？**

「ルーヴァン・カトリック大学」は1425年に創立されました。ルーヴァン＝ラ＝ヌーヴという学園都市が整備され、「街＝キャンパス」のような雰囲気広がっています。世界各国からレベルの高い留学生が集まることもあり、フランス語学習に定評があります。



Q2

何を学びましたか？

フランス語の授業以外に、哲学などの一般科目も受講していました。授業はすべてフランス語。留学直後はスピードについていくのに必死で、哲学の内容まで理解することには苦労しました。しかし、「自由とは何か」「責任とはどこから出てくるのか」といった世界や人の本質を学ぶことが楽しく、興味の範囲が広がりました。

Q3

**現地ではどんな生活を
送っていましたか？**

キッチンやシャワーが共同の8人用の寮で暮らしていました。大学の近くには映画館やショッピングモール、スーパーもあり、初めての自炊生活でしたが、友人たちと協力しながら楽しく過ごせました。驚いたことといえば、ベルギーの友人たちのビールを飲む量！種類も豊富で味も美味しいので、さすがはビール大国だと実感しました。

**留学先を選んだのは
幼少期に住んでいたベルギー。**

父の仕事の関係で5歳から3年間ベルギーに在住していたことがきっかけで、フランス語の留学先にルーヴァン・カトリック大学を選びました。住んだことがあるとは言っても高校までフランス語の勉強はしておらず、本格的に始めたのは大学に入学してからでした。早く会話に慣れるために、チュニジア出身の母と日常的にフランス語で話すように心掛けました。留学前、フランス語の資格であるDELF B2を取得し、仕事でも使えるレベルに達してはいましたが、書くことに関して苦手意識がありました。実際、留学後数ヶ月は授業のスピードについていけませんでした。授業内容を一度日本語で書き直して理解しては、復習の際にフランス語に再び翻訳し直す毎日…。記述式のテストも多く、友人らが早々に提出していく中、自分の実力不足に何度も歯がゆい思いをしました。

**諦めなかったおかげで
確かな自信を手にできた。**

授業や現地での生活に慣れてきたのは半年が経った頃でした。毎回授業の音声を録音し、復習で3回聞き直したり、授業中の分からない単語は書き留めておき、後で調べて暗記したりと、コツコツと地道に勉強した結果だと思います。あるフランス語の授業では、自分で企画・撮影した動画を提出するというユニークな課題があり、画角や編集のクオリティも加点項目に挙げられるなど、大変ながらも楽しんで取り組みました。徐々に気持ちにも余裕が出て、作曲に挑戦したり、ボウリングなど新たなスポーツを楽しんだり、自信がついたおかげで新しいことにどんどん挑戦できるようになりました。

DELF B2の作文が留学前は25点中6点だったものが、帰国後は20点にアップ！在学中にネイティブレベルのC2合格を目指し、今後も勉強を重ねていきます。



**無謀な挑戦で得たのは、
「見返りを求めず奉仕する」という
人生の指針でした。**

＜ 「国際人道法模擬裁判
アジア・大洋州地域大会」とは ＞

**国際人道法をテーマとした模擬裁判で
法的実務や人道的規範を実践的に学ぶ。**

赤十字国際委員会が主催する大学対抗の国際法模擬裁判大会です。国際法の1つである「国際人道法」について、模擬裁判を通して法的実務や人権人道的規範を実践的に学び、理解を深めることを目的としています。同大会では武力紛争下の事象に関わる問題に対し、検察側と弁護側に分かれて英語で法議論を戦わせます。西南学院大学は、根岸陽太准教授(法学部国際関係法学科)のゼミ生3人が2018年度の同大会国内予選に初めて参加しました。



**教育支援
プログラムの
流れ**

教職員が学生を“育てる”新規プログラムを企画し学内審査を受けます。採択されたらプログラムの開始です。

各プログラムにおいて参加者募集が行われ、学生は自主的に申し込みをします。

各プログラムにおいて、取組みが実施されます。研究旅行／勉強会／ボランティア／インターンシップ／イベント運営 など

それぞれのプログラム参加後は、レポートの作成や報告会の開催を行います。

プログラムに参加することにより、学生は多様な能力を身に付け成長します。

SEINAN 教育支援プログラム

Before⇒After 一步前へ。

西南学院大学の教育支援プログラムを通じて、新しい自分を見つけた学生の物語をbefore・afterで紹介します。

プログラム名

**法学部根岸ゼミ
人間の尊厳を守るための平和教育**
(国際人道法模擬裁判アジア・大洋州地域大会国内予選出場)

法学部国際関係法学科 3年 古本 翼さん (九州産業大学付属九州高等学校出身)

**学問で勝負する面白さに惹かれ、
国際レベルの模擬裁判大会に挑戦。**



大学に入学したら何かに挑戦したい。そう思いつつ、動き出せずにいた時に出会ったのが「国際人道法模擬裁判アジア・大洋州地域大会」です。「国際人道法」という人間の尊厳に関わる分野、そして法律知識を使って議論をぶつけ合う模擬裁判に興味を湧き、この大会の国内予選に参加することを決めました。国際レベルで行われるこの大会では、弁論はすべて英語、審査員は外務省や海外の大使館の方々、その上、戦う相手は全国トップレベルの大学で法律を学ぶ学生たちです。法律知識も語学力も不十分な私が彼らにどう食らいつか。不利な状況から勝ちをつかむため、弁論英語を強化し、自分に優位な論点に持ち込む作戦を立てるなどの工夫をしました。

残念ながら結果は予選敗退でした。しかし、学問で勝負する経験を通して、論理的に考えを組み立てる力、相手を説得する力を鍛えることができ、社会に出て役立つ力を手に入れたと実感しています。

**国際機関のインターンシップを経験し、
人道的支援とは何かを体感。**

この大会に参加後、国際人道法がどのように実務で生かされているか、人道的支援の現場を自分の目で確かめたいと思い、大会を主催する赤十字国際委員会のインターンシップに参加しました。

ここでは皆、アフリカの避難民など世界のどこかで困っている会ったこともない人たちのために努力を惜しみません。その見返りを求めない優しさを目の当たりにし、それまで曖昧だった「人道的支援とは何か」という答えをようやく見いだせた気がしました。また、「誰かのために見返りを求めず奉仕する」という自分の核となるものを得ることができました。将来は、この信条を実現できる公務員を目指しています。振り返れば、大会への参加は無謀な挑戦だったかもしれません。しかし、人生を大きく変える経験となりました。目標もなく、漠然と大学生活を送っている人は、無謀と思える挑戦にも飛び込んでほしいと思います。きっと自分の想像以上の何かを得ることができるはずです。



知の原点

教授が日々研究している専門分野との出会いは何か。研究の原点を探り、教授の学生時代の思い出とともに研究への思いをご紹介します。

vol.4

文学部英文学科
ふじのこういち
藤野 功一 教授

早稲田大学第一文学部文学科卒業。ペンシルバニア州立インディアナ大学英語英米文学博士課程修了。文学博士。研究分野はアメリカ文学。主にアメリカの作家ウィリアム・フォークナーを研究。

研究の原点

読むほどに魅了された
アメリカ文学作品との
出会いもきっかけに
研究の道へ。

大学3年次、卒論で書きたい作品を見つけれずにいた時、教授に薦められたのがアメリカの作家、ウィリアム・フォークナーでした。読むほどに彼の作品のとりこになり、色々と読みかじった末、「熊」という作品に決めて卒論を書き上げました。

その出来はあまり満足のゆくものではありませんでしたが、担当の教授に「論文の出来は悪いけど、フォークナーの『熊』を選んだセンスだけは評価してあげよう」と言ってもらえたことが嬉しかった。これがきっかけでアメリカ文学を研究する道へ進むことに。

博士論文に苦勞した時期もありましたが、「フォークナーが描き出そうとした世界が自分には分かる」という確信はありました。その思いがあったからこそ、研究を続けることができていると思います。



アメリカの大学院での、指導教官との一枚



アメリカ文学を通して 人間が持つべき知性とは 何かを探る。

現在の研究

20

世紀のアメリカ文学を代表する作家、ウィリアム・フォークナーの文学作品を学生時代から約30年間、研究しています。彼は特に後期の作品で、多様な文化的背景を持つ人々が、個人間で平等な関係を築こうと苦闘する姿を描き出しました。私は彼の作品を研究することによって、現在の国際社会における人間関係をより良い方向へ導くヒントが得られると思っています。

現在の国際社会では、国家は孤立主義の傾向を強め、人々の考え方も個人主義の側面が強くなっているように思います。アメリカも昔から国家の孤立主義、人々の個人主義が強い国でしたが、同時に、このような孤立主義、個人主義が、どうしようもなくおろかで反知性的な行動を生み出してしまいうこともよくありました（トランプ大統領が良い例ですね）。このような、孤立した国家や人間の陥りがちな反知性的な傾向を批判的に描くことが、昔からアメリカ文学の重要な主題の一つだったのです。

しかし、そのようなアメリカ文学の中でフォークナー文学を私がとりわけ好んだのは、人間のどうしようもない醜い部分をあからさまに書いているにも関わらず、文体に

品があると感じたからです。暴力や人種差別など、人間の嫌な部分を俗っぽく書く作家もいますが、フォークナーは品位を持って書いている。時にユーモアという知性をもつて作品にさりげなく明るさを与えている。言い換えれば、人間の負の面を描きながらも、その中に希望を見いだすことができたのです。

人間が持つべき知性とは何か。フォークナー文学は異なる文化的背景を持つ人々が苦悩しながら同じ社会で生きていく姿を通して、そのことを教えてくれていると思います。そして、フォークナーが後期作品の中で見つけた答えが、自分以外の個人と平等な関係を作り出す知性を人間は持つべきであり、それがより良く生きる希望につながるということです。自分は孤独だと思う人でも何らかの形で人と接しています。その時、知的な情報や意見を交わして生まれた個人間の平等な関係は、たとえ一時的であつても人はそこに希望を感じることができ、むしろそれが人生の希望を感じた時、小さなきっかけかもしれませんが、前を向くヒントになります。

interview with OB・OG

こんにちは先輩 #173

九州朝日放送株式会社
ラジオ局営業業務部 部長代理

おおさこまりこ
大迫 真理子さん

1995年経済学部経済学科卒業。福岡県立城南高等学校出身。大学卒業後、九州朝日放送株式会社（KBC）に入社。入社から約5年間、報道記者として数多くの事件、事故を取材。その後、テレビ部門の営業や制作プロデューサー業を担当。現在、ラジオ局営業業務部に所属。

勉強も、遊びも全力！
刺激に満ちたゼミ活動

学生時代の一番の思い出は、厳しく熱い指導で有名だった安部一成教授のもとで学んだゼミです。週1回のゼミでは、日本経済について学び、毎回学生同士で議論を交わしていました。一方、学生の中に様々な経験を

力やコミュニケーション力は、社会で生きていく中で大きな支えとなっています。

どんな仕事にも
私にしかできない仕事がある

卒業後はテレビに関わる仕事をしたいと思い、九州朝日放送株式会社に入社しました。最初の配属先の報道部では報道記者としてニュース原稿を作り中継のレポートをしました。特ダネをつかむため、昼夜問わず現場に張り付くこともありました。気力も体力も使う仕事でしたが、世の中にニュースを送り出す達成感を味わえる仕事でした。なかでも、介護先進国のドイツを取材し、「ニュースステーション」で取材記者として報告できたことは貴重な経験でした。

その後、結婚を機にテレビ部門の営業部へ。私という人間を信頼して、仕事をいただけることに感謝し、やりがいを感じながら取り組んでいました。料理研究家平野レミさんを起用した料理コーナーを提案し、7年間もの



担当スポンサーのラジオ収録に立ち会うことも。また、福岡県内60市町村の魅力を発信するプロジェクト「ふるさとWish」をラジオで盛り上げるために日々奮闘しています。

長い間放送できたことも大きな自信になりました。現在はラジオ局営業業務部に所属し、ラジオCMの枠を販売しています。ラジオのメディアとしての可能性を発掘し、多くの人にその魅力を発信していくことが今の目標です。様々な業務を経験して感じるのは、私にしかできない仕事をするのが信頼につながっているということです。この大学を出たかは入社すれば関係ありません。多くの人と出会い、あなた自身の人間的な魅力をぜひ学生時代に磨いてほしいと思います。

※報道ステーション（テレビ朝日）の前身番組

私の座右の銘

「感謝」と
「思いやり」

「この人が困っているなら助けてあげよう」という気持ちに支えられ、仕事が成立していると実感します。普段からコミュニケーションを大切にすること、そして支えてくれる周りの人に感謝し、相手を思いやって行動することを心掛けています。

STORY

私にしかできない仕事で
信頼をつなげていく。
それが私の喜びです。



子どもの頃からテレビが大好きで、アナウンサーに憧れてテレビ局を目指したという大迫真理子さん。九州朝日放送株式会社（KBC）に入社後は、報道記者として現場を駆け回る日々を過ごしたといいます。テレビ部門の営業職を担当していた際には、多くの人気番組の制作に携わりました。現在は、ラジオ部門の営業としてラジオの魅力発信に務めています。あらゆる仕事にチャレンジ精神を持って飛び込んでいく大迫さんの姿勢は西南学院大学で培われたといいます。そんな大迫さんの学生時代のお話と仕事への思いについて伺いました。

しておいた方が社会に出た時に役に立つという安部教授の教えのもと、レクリエーションにも積極的に取り組みました。忘年会でモノマネに挑戦したり、他大学との交流会で社交ダンスを披露するなど人前で表現する度胸がきました。

また、学生時代に多くの人と関わることで培った自分の意見を伝える





「知」の欠くべからざる成立条件とは、広い教養をもつて、人類とそれを支える社会と公共空間に資することだと思えます。しかし最近、偏差値の高さを誇る大学が、重層的な知を必要不可欠とする、とある学問分野を研究対象から排除したとうれしそうに吹聴していたことを知り、愕然としました。早い話が流行りじやない、面倒だ、という、しょーもない理由で「知」が放棄されたのです。ここで恐ろしいのは、偏差値の高い人がや

ることは、いいことに違いないと巷間で誤解されそうな点です。最先端のビッグデータも、理念なしには、有用にはならないでしょうし、流行の「自己責任」論などは、ほぼ博打のリスクに応じた巨大な利益をごく少数の既得権益層が享受する一方で、失敗した場合の損失部分だけを、大多数の善良な人々に負担させるための詭弁であることが、少し知的な作業をすればすぐに理解できます。一方で、既得権益層は、新しい変化に対して受容性の高い若年層が、「知」的な思考作業を始めることにに対し、メディアなどの媒体を通じて抵抗的な態度を示すでしょう。ですから、より多くの人間が生きやすくなるためには、若年期に教養を蓄積し、知性を涵養していくことが必要なのだと考えます。

知ることとは生きやすくなること

教授の ヨノナ力考

社会で起こっているさまざまな事象を先生方が独自の視点で語ります。

経済学部国際経済学科
加藤 真理子 准教授
東京大学経済学部経済学科卒業、東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻修了。博士(学術)。サセックス大学大学院修士(経済学)など。研究分野は開発経済学。

NEWS

アメリカンフットボール部が 全日本大学選手権西日本代表校決定 トーナメント2回戦で健闘！

2019年11月16日、福岡県春日市の春日公園球技場にて、甲子園ボウル出場をかけた全日本大学選手権西日本代表校決定トーナメント2回戦が行われ、関西学院大学に惜しくも敗退しました。

本学アメリカンフットボール部は、2019年度九州学生アメリカンフットボール1部リーグ秋季リーグ戦で6連覇を達成し、同選手権に出場しました。1回戦は、福井県立大に30-7で勝利。2回戦は、昨年の甲子園ボウル優勝校、関西学院大学(関西学生リーグ2位)と対戦しました。

第1クォーター(Q)では両者譲らず0-0、第2Qに試合が動きました。関西学院大学の2つのタッチダウンやフィールドゴール、本学側ペナルティなどで相手のペースに傾きかけましたが、QB#16伊藤嵩人(商・経営4年)のタッチダウン、#9田中良樹(経・経4年)のキックで7-17とし、前半を終えます。

第3Q、関西学院大学のリズムの良い攻撃から、タッチダウンやフィールドゴールなどを決められ、27-7となります。粘る本学は、QB#16伊藤のロングパスから#15城代慈英(経・経2年)のタッチダウン、キックで27-14とし、最終第4Qへ移ります。

第4Qでは、再びQB#16伊藤のロングパスから#15城代のタッチダウンや、#80田中虹輝(法・法4年)のタッチダウンなど反撃を見せましたが、26-47で惜しくも勝利を収めることができませんでした。

「打倒関西」を目標に取り組んできた本学アメリカンフットボール部は、試合には敗れたものの、昨年甲子園ボウル優勝校に闘志あふれるプレーで善戦しました。

来季のアメリカンフットボール部のさらなる活躍が期待されます！



NEWS

脊振の自然を愛する会が、環境省 「令和元年度自然歩道功労者表彰」 を受賞しました

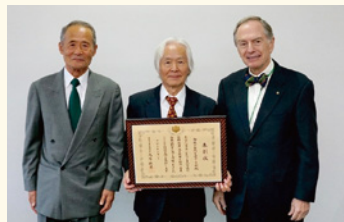
西南学院大学ワンダーフォーゲル部OBが主体となって活動している「脊振の自然を愛する会」が、環境省の「令和元年度自然歩道功労者表彰」を受賞しました。

この会は、脊振山系での道標設置活動を目的に、2012年6月に設立されました。現在、会員は60人で、現役のワンダーフォーゲル部員も活動に参加しています。

自然歩道功労者表彰は、永年にわたり自然歩道の維持・管理等に顕著な功績があった個人・団体に対し、毎年10月に環境省が行っているものです。

今回、登山ルートを案内する道標・案内板を設置するほか、クリーンアップ登山・脊振山系金山山開きや、関係行政機関および関係団体とのサミットを開催するなど、自然環境保全の必要性を発信する活動に尽力したことが受賞理由です。

代表の池田友行氏(68期)は、「この活動を続けて来て良かった」と受賞の感想を語り、副代表の平穩氏(67期)は、「今後も脊振の自然を守りたい」と抱負を述べました。



左から、平穩副代表、池田友行代表、G.W.バークレー学長

NEWS

読売新聞読書教養講座を開催

in
FUKUOKA

高村薫さん、俵万智さん、松村由利子さんが講演

2019年10月8日、直木賞作家の高村薫さんを講師に迎え、「それでも言葉を探す」というテーマで、読書教養講座を開催しました。会場となった西南コミュニティセンターホールには多くの方が来場し、講演後の学生とのトークセッションでは、活発な意見交換が行われました。高村さんは講演の中で、「昨今では、言葉と



高村さんの講演の様子
【写真提供:読売新聞社】

文体だけで織り上げる文章世界から人間や社会を浮き彫りにする純文学よりも、わかりやすく感動できるストーリーが描かれるエンターテインメント小説がより書かれ、読まれ

る時代になってきており、小説と漫画、ドラマなどのボーダーレス化を加速させている」と語りました。その後、学生3人の質問に応じ、生活者としての感覚を大事にしていると述べました。

また、12月7日、歌人の俵万智さんと松村由利子さんを講師に迎え、「言葉がこぼれる時」をテーマに、本学法学部の田村元彦准教授と対談を行いました。俵さんは、絵本の翻訳も手がけていることについて、「絵本の言葉は短歌と少し似ている。短くて覚えやすく、リズムがある。子どもの絵本は繰り返しの読書ですから、責任の重さややりがいを感じています」と述べました。松村さんは、2022年度からの高校の国語改革について、「すぐに役立たないと軽んじられているが、文学を通して深い理

解と共感が生まれる。豊かで平和な世界のためにも文学は大事です」と語りました。また、学生とのトークセッションでは、自らの短歌との向き合い方について語りました。

読書教養講座は、読売新聞社活字文化推進会議主催の講座で今年15年目の開催となりました。講演を聞きながらメモを取る参加者の姿も見受けられ、読書に対する意識の高さがうかがえました。



松村さん(左)、俵さん(右)の講演の様子
【写真提供:読売新聞社】

in
TOKYO

読書教養講座 in Tokyoを開催 ～沼田真佑さん×大友啓史さんが対談～

2020年1月21日、西南学院東京オフィスが入るサビアタワーにおいて、読書教養講座in Tokyoを開催しました。2017年に第157回芥川賞を受賞した作家の沼田真佑氏(西南学院大学商学部卒)の作品「影裏」が映画化されることに伴い、沼田氏と映画「影裏」の監督を務めた大友啓史氏が「文学と映像のハーモニー」というテーマで対談しました。聞き手は日本テレビアナウンサーの尾崎里紗氏(西南学院大学経済学部卒)が務め、会場には応募の中から抽選で選ばれた約400名が参加しました。

大友氏は、「影裏」の映画化について、「わかりやすい小説ではないが、大切なこと、メッセージが行間に隠されている。非

常に文章が美しく、映像的なイメージが目の前に浮かびました」と語りました。また、撮影する際には、人生や人間の不確かさを描いている原作を原作以上に説明しすぎないように意識したと述べました。

沼田氏は、完成した映画について、「だんだんと何かが暴かれていく感じが色と音で表現されていました。小説を読むときの快楽、例えば、『怒っているとはっきり書かれていないけれども、怒っている感じがする』というようにところに似ているように感じました」と感想を述べました。

また、「地元には張りついて濃密に撮影したので、岩手の土地の香りが立ち上がる映像になっていると思う」と述べる大友氏

に対し、沼田氏も「画面の質感や光の具合が楽しめる作品なので、ぜひ映画館の大きな画面で見たい」と映画で注目すべき点についても話が弾み、参加者は熱心に聴き入っていました。



対談する沼田さん(中央)、大友さん(右)、聞き手の尾崎さん(左)
【写真提供:読売新聞社】

NEWS

没後2年追悼シンポジウム 「葉室麟さん最後の小説『暁天の星』 『星と龍』を読む」を開催

1月24日、西南学院百年館(松緑館)にて、本学出身の直木賞作家葉室麟さんをしのび、トークイベントを開催しました。イベントでは、ゲストとして作家の東山彰良さん(高等学校・大学・大学院OB)、立花家史料館館長の植野おかりさん、九州大学法学部教授の南野森さんが登壇し、それぞれの思い出を披露しました。

また、ゲストが推薦する葉室作品を紹介するほか、葉室さんが病と闘いながら執筆した最後の小説「暁天の星」(PHP研究所)と「星と龍」(朝日新聞出版)を通じ、葉室さんが現代に問いかけようとしたことについて語り合いました。

終盤には、参加者として来場していた作家の澤田瞳子さんも急遽登壇し、葉室さんの作品の魅力や、晩年に過ごした京都での思い出などを語りました。

このイベントは、有志によるシンポジウム「葉室麟作品を語る」実行委員会が主催し、本学の「西南学院大学ことばの力養成講座(責任者:法学部准教授田村元彦)」が共催しました。



NEWS

留学生別科(前期) 終了式を行いました

2019年12月20日、西南コミュニティセンターで2019-2020年度留学生別科(前期)終了式が行われ、前期(8～12月)のみ在籍の学生として来日していた14ヵ国63人の留学生が本学での留学生活に別れを告げました。会場には、友人や教職員など約120人が集い共に終了を祝しました。

G.W.パークレー学長が留学生に終了証書を手渡し、「西南学院を巣立つ皆さんが、日本で学んだことを生かして、将来自分の国でリーダーとして活躍することを切に願っています」と式辞を述べました。

その後、ドゥエン・オルソン国際センター所長の告辞に続き、初級(3クラス)、初中級(2クラス)、中級、上級の日本語クラスを代表して7人の留学生が答辞を読み上げました。中級日本語クラスのハンセン・マリウスさん(デンマーク、コペンハーゲン大学)は「日本人、留学生の友人と多くの時間を過ごし、学生としてだけでなく、人間としても成長することが出来ました。西南学院大学で過ごした時間を決して忘れません。また必ず日本に戻ってきます」と日本語でスピーチし、会場は大きな拍手に包まれました。

終了式後にはGlobal Student Lounge(3号館1階)にて歓送会を開催し、留学生は教員や友人らとの最後の時間を楽しんでいました。



NEWS

準硬式野球部が創部70周年 記念式典を開催しました

2019年11月30日、準硬式野球部創部70周年記念式典が行われ、OB・OGや現役部員など約140人が参加しました。1949年創部の準硬式野球部は、全日本大学準硬式野球選手権大会へ20回の出場を誇り、今年8月に行われた全国大会へ6年ぶりに出場しました。

西南学院百年館(松緑館)で行われた記念式典では、第91回選抜高校野球大会に21世紀枠での出場を果たし、本学準硬式野球部OBで熊本県立熊本西高校野球部監督の横手文彦氏(98期)による「夢、挑戦、感謝、感動」と題した講演会が行われました。その後、西南クロスプラザで行われた祝賀会では、G.W.パークレー学長と河合弘吉体育OB・OG会長が祝辞を述べました。続いて、長きにわたる準硬式野球部の発展への功績をたたえて、現準硬式野球部部長の国際文化学部・中島和男教授、準硬式野球部前監督の木村洋氏、顧問の坂本正孝氏へ功労賞が与えられました。

また、現役活動紹介も行われ、陣内賢利主将(経・経4年)が出席した来賓、OB・OGに向けて感謝の意を表し「これからも期待に応えていくことができるように、2季連続の全国大会出場に向けて、部員一丸となって練習に励んでいきます」と今後の抱負を述べました。

最後は、応援指導部応援団のリードのもと全員で校歌を歌い、西南学院大学準硬式野球部のさらなる発展を祈念し、閉会となりました。



NEWS

2019(令和元)年度 西南学院大学成績優秀者 奨学金交付式を行いました

2019年12月6日、西南コミュニティセンターホールにて、成績優秀者奨学金交付式を行いました。成績優秀者奨学金は、学部3年次生、4年次生を対象に優秀な成績を修めた学生へ給付する制度で、2011年度に創設されました。今回、交付の対象となった学生は72人でした。

交付式では、G.W.パークレー学長が式辞を述べ、続いて各学部の代表者へ奨学金給付証を手渡した後、宮原哲学生部長が「今回の奨学金は、それぞれの目標に向かって着実に進んでいる皆さんが交付の対象になっています。これからも自分の可能性を広げ、邁進し続けてください。そして、皆さんが西南学院大学全体を牽引する役割を担うことを期待しています」と祝辞を述べました。



NEWS

大学間包括連携協定並びに法曹養成連携協定を締結しました！

大学間包括連携協定

本学は、この度、成蹊大学、國學院大學、東京外国語大学の三大学と大学間包括連携に関する協定を締結しました。

成蹊大学との協定は、両大学が教育や研究、地域貢献、産学連携及び国際交流等の分野で広く協力し、地域の発展と人材の育成に寄与することを目的としています。(2019年11月5日締結)

國學院大學との協定は、2014年に締結した両大学博物館研究協力に関する協定での活発な交流実績を踏まえ、両大学の継続的な発展と多様な価値観に基づく新たな価値の創造に寄与することを目的として、大学間での包括連携協定を新たに締結しました。(2019年12月9日締結)

東京外国語大学との協定は、グローバル化時代の未来を切り開く優れた人材の育成と両大学の更なる発展を目指して、教育、研究を中心に幅広く連携を図り、また、双方の学術研究の成果を広く世界に発信し還元することを目的としています。(2019年12月16日締結)



左から、北川浩成蹊大学学長、G.W.パークレー学長



左から、針本正行國學院大學学長、G.W.パークレー学長



左から、林佳世子東京外国語大学学長、G.W.パークレー学長

法曹養成連携協定

本学法学部は、2019年12月19日に、早稲田大学大学院法務研究科および同志社大学大学院司法研究科と、また2020年1月22日に、中央大学大学院法務研究科および学習院大学専門職大学院法務研究科と法曹養成連携協定を締結しました。

2019年5月の法改定に伴い、弁護士など法曹界を志望する学生を養成するため大学の法学部等と法科大学院の連携強化が図られています。連携による「法曹コース」の設置が認定されることにより、優れた学生については大学3年次終了時点で法科大学院へ進学できるなど、新たな選択肢を提供する予定です。

これらの協定により、今後は法学部と各法科大学院が連携して体系的・一貫的な教育課程を編成し、法曹志望が明確な学生に対して、学部段階からより効果的な教育及び法曹養成を行っていきます。



左から、松村和徳早稲田大学大学院法務研究科長、毛利康俊法学部長、大中有信同志社大学大学院司法研究科長



左から、小林明彦中央大学大学院法務研究科長、毛利康俊法学部長、若松良樹学習院大学専門職大学院法務研究科長

INFORMATION

九州六大学野球春季リーグ戦・西福戦(春季応援合戦)開催のお知らせ

日時

4月18日(土) 14:00(試合開始予定)

場所

福岡PayPayドーム

試合

西南学院大学 対 福岡大学

※在学生は入場無料



Calendar 2020 Spring

4 April

1日(水)

入学式(学部・大学院[法科大学院を除く])

2日(木)

オリエンテーション(学部／～6日(月))
前期授業開始(法科大学院)

3日(金)

水曜日の振替授業(法科大学院)

8日(水)

前期授業開始(学部・大学院)

18日(土)

九州六大学野球春季応援合戦(対:福岡大学)

5 May

14日(木)

金曜日の振替授業(学部・大学院・法科大学院)

15日(金)

学院創立記念日(全学休講)

26日(火)

春季キリスト教フォーカス・ウィーク(～28日(木))
時間:10:20～11:20 場所:大学チャペル

31日(日)

C.K. ドージャー先生記念日

6 June

中旬

九州地区大学体育大会夏季大会(於:大分)

西南学院大学公式 Facebook、Twitter、YouTube!

● Facebook

● Twitter

● YouTube







皆さまからの「いいね!」をお待ちしております!

Facebook

https://www.facebook.com/seinan-gu/

Twitter

https://twitter.com/seinan-gu

YouTube

https://www.youtube.com/channel/UCo0MQ5bOFNXql6cDJop6NfA

西南学院Letterにご登録ください!

メルマガ「西南学院Letter」は、西南学院のNEWSやイベント情報などをおよそ月2回の頻度でお届けいたします。



ぜひご登録ください!

INFORMATION

教員の新任・退職情報

お世話になりました

2020年3月31日付退職教員

＜専任教員＞

西野 宗雄 / 商学部商学科 教授

尾上 修悟 / 経済学部国際経済学科 教授

瀬川 啓子 / 人間科学部児童教育学科 教授

松永 裕二 / 人間科学部児童教育学科 教授

小林 隆児 / 人間科学部社会福祉学科 教授

館 暁夫 / 人間科学部社会福祉学科 教授

後藤 新治 / 国際文化学部国際文化学科 教授

中島 和男 / 国際文化学部国際文化学科 教授

邊土名 朝邦 / 国際文化学部国際文化学科 教授

和田 安夫 / 大学院法務研究科(法科大学院) 教授

川瀬 義清 / 文学部外国語学科 教授

小熊 和郎 / 文学部外国語学科 教授

一ノ澤 直人 / 法学部法律学科 教授

津田 謙治 / 国際文化学部国際文化学科 教授

森田 園 / 国際文化学部国際文化学科 教授

酒井 三千穂 / 文学部英文学科 教授

長倉 忍 / 大学院法務研究科(法科大学院) 准教授

＜外国語教員＞

王 宇南 / 言語教育センター 助教

山田 泉 / 言語教育センター 助教

はじめまして

2020年4月1日付就任予定者
※()内は担当科目

＜専任教員＞

中西 弘 / 外国語学部外国語学科教授(英語、英語音声学、英語教育関連科目)

田中 理絵 / 人間科学部社会福祉学科及び教職教育センター教授(生活指導論、教育相談 他)

ヒラルド ロドリゲス / 神学部神学科准教授(現代社会とキリスト教、宗教学A/B、外書講読A/B 等)

ユスチナ W. カンシャ / 外国語学部外国語学科准教授(英語、外国語コミュニケーション、Global Issues)

高山 浩二 / 商学部商学科准教授(証券論)

平松 愛子 / 人間科学部児童教育学科准教授(音楽A、幼児と表現 他)

田中 康雄 / 人間科学部社会福祉学科准教授(組織マネジメント論、福祉サービスの組織と経営、ボランティア活動論)

雪丸 武彦 / 人間科学部社会福祉学科及び教職教育センター准教授(教育の制度と経営、教師論)

分部 利紘 / 人間科学部心理学准教授(消費者行動心理学、消費者行動分析実習、消費者行動研究法)

細川 美幸 / 人間科学部児童教育学科講師(幼児と人間関係、乳児保育、保育実習 他)

梅村 卓 / 国際文化学部国際文化学科講師(中国・アジア文化史、中国語)

二藤 拓人 / 国際文化学部国際文化学科講師(ヨーロッパ文学論、ドイツ語)

柳沢 史明 / 国際文化学部国際文化学科講師(表象文化史、美術史)

＜外国語教員＞

隈部 歩 / 言語教育センター助教(英語)

山内 勝弘 / 言語教育センター助教(英語)

単 艾婷 / 言語教育センター助教(中国語)

INFORMATION

2019年度公認会計士試験に卒業生が合格

みはら ゆかこ
三原 由香子さん (2015年・商学部商学科卒業)

合格おめでとうございます。今後の活躍が期待されます。

INFORMATION

院長に今井尚生教授が就任

2019年12月3日の臨時理事会において、今井尚生国際文化学部教授を西南学院 院長に選任しました。

任期は、2020年4月1日から2024年3月31日までの4年間です。



INFORMATION

2020年度前期 公開講座「西南コミュニティカレッジ」のご案内

西南コミュニティカレッジでは、「学部等提供講座」、「リカレント講座」、「教養講座」、「連携講座」を開設し、あらゆる世代の方々に“学びの場”を提供しています。前期は、以下の講座を含む全20講座を開講しています。

● 西南コミュニティカレッジは内容によって4つのカテゴリーにわかれています

学部等提供講座

本学の教育・研究などの知的資源を広く社会に還元することを目指して、学部および学内の諸機関が提供する講座です。

リカレント講座

社会人の方が再び教育の場で最新の知識や技術を習得し、仕事や社会活動に活用していただくための講座です。

教養講座

本学の建学の精神に関わるキリスト教から哲学・心理、語学、歴史・芸術、経済・社会など幅広いジャンルから提供する講座です。

連携講座

R60倶楽部(福岡市による支援事業)などと提携して提供する講座です。

■ 本学学生は無料で受講できる講座

「外国語学」とは何か？
～グローバル・スタディーズへの新たな試み～
提供:外国語学部

■場 所:西南コミュニティセンター1階ホール
■開講期間:5月8日(金)～7月3日(金)18:30～20:00

フィンランド芸術への招待
～ガッレン＝カッレラからマリメッコまで～
提供:大学博物館

■場 所:西南コミュニティセンター1階ホール
■開講期間:5月12日(火)～6月9日(火)18:30～20:00

聖母マリア・コレクション
提供:大学博物館

■場 所:西南コミュニティセンター1階ホール
■開講期間:6月17日(水)～7月8日(水)18:30～20:00

ジャズという奇跡
～アフリカがアメリカでヨーロッパと出会う(4)～

■場 所:西南コミュニティセンター1階ホール
■開講期間:5月11日(月)～6月29日(月)18:30～20:00

■ 社会連携課オススメの講座

初心者のためのキリスト教入門
～時代と共に生きるイエス・キリスト～

■場 所:西南コミュニティセンター2階プロジェクトルーム
■開講期間:5月7日(木)～6月4日(木)18:30～20:00

マンガからみる中国文化
～春秋戦国・三国時代を中心に～

■場 所:西南コミュニティセンター2階プロジェクトルーム
■開講期間:6月18日(木)～7月30日(木)18:30～20:00

[テレQ提供] 経済を身近に考えよう～メディアの視点～

■場 所:西南コミュニティセンター2階会議室
■開講期間:5月13日(水)～6月10日(水)18:30～20:00

世界は思ったよりず～っと広い。
とっておきの大人の旅教室

■場 所:西南コミュニティセンター2階プロジェクトルーム
■開講期間:5月19日(火)～6月9日(火)18:30～20:00

詳しくは

各講義についての詳細及びお申し込み方法については、ホームページでご確認ください。

西南学院大学 生涯学習 検索

【お問い合わせ】

社会連携課
TEL:092-823-3952(平日9時～17時)
E-mail:renkei@seinan-gu.ac.jp



INFORMATION

OB・OGの新著

日本独特の働き方・雇用・労働市場・経済・課題を知らう



『働き方と年収の壁の経済学』
いしづか ひろみ
石塚 浩美/著 (1984年・商学部商学科卒業)
●2018年 日本評論社 本体2,000円＋税 248頁

世界で概ね唯一の日本の働き方・雇用・労働市場・経済の特徴と経済大課題が理解できる一冊である。最終章に現状と日本保持用の、若年層対象の就活の知識もある。日本は、若年層では男性の方が就活圧力は高めで、中高年では女性が就業圧力は高いが、歴史表をみると変化はない。著者は、博士(経済学)号をもつ大学教授であり、専門は応用ミクロ経済学(客観性重視)の労働経済学である。日本の働き方改革の契機であるIMF専務理事提言のIMFレポートにも、本書の元論文が引用文献としてあげられている。

中国・韓国から学んで日本の課題を解決させよう



『日中韓働き方の経済学分析』
いしづか ひろみ
石塚 浩美/著 (1984年・商学部商学科卒業)
●2019年 勁草書房 本体3,300円＋税 240頁

日中韓は、隣国であり大昔から基本的な共通点がある。経済的には、日本は2009年までアジア最大先進国で、韓国も先進国で、中国は2010年から世界第2位の経済規模新興国になった。中国は1958年から農業戸籍と非農業戸籍の2大戸籍制度で、日中韓比較では沿海部の非農業戸籍地域のみで、男女格差は小さい。日韓のGGGI(世界男女格差指標)は世界110位以上で先進国で最大2ヵ国である。ただし、韓国は働き方改革を強く実行していて成果が出ているため、本書刊行日発表の2019年データで韓国は108位と格差縮小でき、日本は121位と初めて先進国最大となってしまった。

本学教授の新著

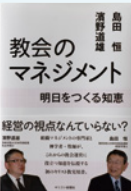
「物事の源泉を探索しようとする人」に



『ゴスペルハーモニー 君に贈る5つの話』
みやひらのぞむ
宮平 望/著 国際文化学部国際文化学科教授
●2019年 新教出版社 1,200円＋税 124頁

本書は、「ドレミの歌」のキリスト教的起源、神が三位一体である理由、第一次世界大戦中のクリスマス休戦、救われるヒント、「グッドバイ」の神学的起源に触れ、ドレミの歌の原型賛美歌、認知神経科学における3個までの「即時把握」、前線の戦闘を中断させた三拍子の「きよしこのよる」、詩「足跡」、Good-byeの語源としての共にいる神“God be with ye”や贈う神“God buy you”について論じる。

教会を形成する信徒と牧師のために



『教会のマネジメント 明日をつくる知恵』
しまだ ひさし はまの みちお
島田 恒、濱野道雄 神学部神学科教授/著
●2020年 キリスト新聞社 本体1,600円＋税 190頁

学校にせよ会社にせよ、組織が個人を「守り」「管理する」のではなく、個人がいかに連帯して組織をつくるのか問われる時代になった。非営利組織ならなおさらのこと。キリスト教会はそのような組織とどこが同じでどこが違うか。大ヒット作「NPOという生き方」(PHP新書)の著者、島田恒と、本学神学部教授の濱野道雄による本書は、この世界のただ中で未だ見ぬ世界をいかに形づくるか、経営学と神学の双方から模索する。日本人による類書は少ない。仏教の若手僧侶からも関心が寄せられていると聞く。ここから議論の広がり生まれるか。

24 SEINAN Spirit No.212

SEINAN Spirit No.212 23



左:記事のスクラップを見て情報収集をすることもしばしば 中:鶴さんの署名記事。「署名記事は“その記事に責任を持つ”という意味です」と鶴さん

インターンシップをきっかけに 新聞記者の道へ

学生時代の夢は、英語教師になること。その夢が一変したのは、西日本新聞のインターンシップがきっかけでした。もともと、大学に新聞を持参するほどの大の新聞好きだったこともあり、興味を持ち、応募しました。わずか1週間の経験でしたが、「自分が書いた記事で世の中が変わるかもしれない」と、記者の仕事に大きな可能性を感じました。

入社後、新人記者には警察担当として、警察官から事件や事故の情報を聞き出す“サツ回り”という関門が待ち受けています。警察幹部の朝の出勤時間帯を狙って世間話をしたり、夜は取材相手の帰宅を待って事件の話題を持ちかけたりします。相手の表情やちょっとした言葉遣いの変化を読み取ろうとしますが、なかなか上手くいきません。他社に「特ダネ」を書かれることなど、失敗も少なくありませんでした。それでも、先輩記者のアドバイスを聞いて自分なりの取材方法を考え、少しずつ成長



できたと思います。つらいときには大学まで続けた陸上競技部の猛練習を思い出しながら乗り越えてきました。

体で覚えた“足で稼ぐ”感覚。 記者人生の基盤に

豊総局時代、高齢の母親を娘が殺害するという凄惨な事件が起きました。特に犯人が捕まるまでの数日間、昼夜問わず進捗情報を追い続け、地道に取材を重ねました。実際に現場を歩き、通りの交通量や明るさ、そして犯人の行動を自分なりに整理し、現場の空気感も交えながらルポとして発信しました。犯行時間帯と同じ未明の現場周辺を歩いたことで、記事を見た警察幹部とのやり取りも徐々にスムーズになりました。現場を知らなければ話せない話題や、浮かばない疑問点が必ずあります。当時は右も左も分からずがむしゃらでしたが、現場に出ることの大切さを改めて感じた事件でした。

現在は、司法担当として裁判の傍聴や検察などへの取材を行っています。水俣病やハンセン病といった社会問題の裁判は現在も続き、長い間苦しんでいる方が九州に大勢いらっしゃいます。今の目標は、難しいと思われるがちな裁判の記事を、分かりやすく伝えることです。どのように伝えるべきか、常に自分に問いかけながら、毎日取材に奔走しています。

“足で稼ぐ”を知り、景色が変化 地道な取材にこそ世に問う力がある

決断

ターニングポイント！
人生は選択の連続。社会で活躍する先輩たちの「決断」から学ぶ、働くことへのヒント

第4回

鶴 善行さん

株式会社西日本新聞社
報道センター社会部記者

profile

2011年 文学部英文学科卒業
西南学院高等学校出身。高校、大学と陸上部に所属し、リレー種目でインターハイに出場。大学卒業後、入社1年目は筑豊総局の配属となり、管轄内で発生した事件、事故を取材。4年目には現部署へ異動し、現在は警察司法グループとして裁判を担当。

決断までのSTEP

STEP1
教師を目指す
夢であった英語教師になるため、教職課程を履修する。

決断

インターンで新たな夢に出会う
3年次ある先生の助言により西日本新聞のインターンシップに参加。記者の仕事に惹かれ、就職活動を一般企業へとシフト。

最初の難関“サツ回り”

入社1年目、飯塚市にある筑豊総局へ配属。“サツ回り”といわれる警察担当記者として事件・事故を担当する。根気強く取材を重ね、記者としての自信も芽生える。

STEP4

裁判をわかりやすく発信
4年目、本社社会部へ異動し、現在に至る。裁判の傍聴や検察などへの取材を行う。



思い立ったが吉日！

「学生のうちに興味のあることにはどんどん挑戦を。インターンシップに参加するきっかけとなった先生のアドバイスの意味を、社会人になった今しみじみと実感しています。社会人になるとどうしても自由にはいる時間は少なくなりますが、だからこそ、自分の直感に従い、勉強、趣味、スポーツ、様々なことに挑戦してほしいです。」